

TACが販路拡大

小田原百貨店に秦野産

J Aはだのは、営農経済改革の「販売力強化」の一環で、TAC（地域農業の担い手に対向くJ A担当者・愛称タック）活動の主軸とした販路拡大に取り組んでいる。9月28日には、小田原百貨店大雄山店のオープンに合わせ、J A全農中央ビジネスセンターを通して秦野産野菜の出荷を始めた。



TACは、同センター職員や同店バイヤーらとオープン半年ほど前から定期的に協議。やさしい部会露地部を通じて出荷希望者を募り、出荷品目の選定なども進めてきた。県内産の野菜を取り扱う「地場産野菜コーナー」には、毎日5、10品目ほどの秦野産野菜が並び、現在、農家12人が出荷者として登録。来店者に安心して買ってもらえるよう、出荷者の顔写真も設置した。同店の青果バイヤー、奥津英明さんは「秦野産野菜は品質が良い。地場産という安心感から、売れ行きも上々」と話している。



J A本所の花壇に花を植え付ける部員

市内を花で彩る 青年部が

青年部は、部員が育てた花で市内の各所を彩る「花いっぱい運動」に取り組んでいる。J A本所の花壇を定期的に植え替えている他、地域の公共施設などに花を植え付け、たランタナを提供し、多くの市民の目を和ませている。18日には、J A本所の玄関前にある花壇を植え替えた。用意したのは、部員が育てたヒメジョオンなど7品種280ポット。部員14人が耕運機で花壇を耕し、防草用マルチを敷き詰めた後、1株ずつ丁寧に植え付けた。高橋正宏委員長は「来所した方々に部員が育てた季節の花を見てもらった、部の活動に興味を持ってもらえたらうれしい」と笑顔を見せた。12月には、花を植え付けたランタナを第12回はたの丹沢水無川マラソン大会や市内の幼稚園などに提供予定だ。

J A はだの

発行所 秦野市 農業協同組合 (神奈川県) 〒257-0015 秦野市平沢477 電話 0463(81)7711(代) 編集発行者 宮永 均

今月の特集

4~5面 収穫の秋迎える 秋が徐々に深まり、多くの農産物が収穫シーズンを迎えている。市内でさまざまな農業体験イベントが開かれ、各地から喜びの声が上がっている。



くす玉に向かってお手玉を投げる部員

力を合わせ楽しく運動会

くす玉を割ろうと、お手玉を力強く投げる女性部員たち。女性部が4日に秦野市カルチャパーク陸上競技場で開いた「女性部運動会」の一幕。今年度は部員307人が、鈴割りや綱引きなどの競技に汗を流した。



同運動会は、部員の健康増進と相互の親睦を図るため、毎年開催。今年は前掛けをたすき代わりにボールを片付けるお掃除リレーなど、新たな競技も登場し、盛り上がりを見せた。小泉裕子部長は「今後も種目を主としながら、楽しく運動会を開きたい」と意欲を燃やす。

農業まつりにご来場を

農業まつりを11月19日(土)、20日(日)に本所で開きます。地場産農産物の即売や無料配布、仮面ライオンエグゼイドなどのヒーローショー、女性部バザーや野菜の

11月19、20日開催 ヒーローショーやバザーも

宝船展示など多彩な催しを予定しています。その他、女性部や青年部などによる模擬店が軒を連ねます。ぜひご家族でご来場ください。



視察団

現地の農業学び意見交換も ベトナムに視察団 J Aはだのは15日、5日間、組合員教育事業として、ベトナムに派遣した。組合員の見学視察団は、ベトナム北部東部、タイビン省にある幼稚園と小学校を訪問。児童が交換した図画や書道と交流し、親睦を深めた。ベトナム協同組合連盟(VCA)では、農業の情勢や協同組合の役割などについて意見交換し、互いの組織の発展を誓い合った。

接近! おじさま対

「農業の魅力をもっとの人に伝えたい」と意気込む今泉の飯田敏一さん。農家の長男として生まれ育ち、大卒卒業後は東京ホテルに38年間勤務し総支配人まで務めた。定年後は父の畑を受け継ぎ、10坪のミカン畑と20坪の園場(ほじょう)を



今泉の 飯田 敏一さん(68)

農業の魅力を伝えたい

野市視察協会からミカンの収穫体験の依頼を受け、観光農業にも取り組んでいる。体験することで興味を持ち、現在の農業の在り方を考える機会になれば」と真剣に語る。飯田さんは毎年、秦野市視察協会からミカンの収穫体験の依頼を受け、観光農業にも取り組んでいる。体験することで興味を持ち、現在の農業の在り方を考える機会になれば」と真剣に語る。飯田さんは毎年、秦野市視察協会からミカンの収穫体験の依頼を受け、観光農業にも取り組んでいる。体験することで興味を持ち、現在の農業の在り方を考える機会になれば」と真剣に語る。

組合員の声をJA運営に 83会場で秋の座談会



多くの組合員が出席した座談会(千村児童館)

J Aはだのは、9月29日、10月12日まで、市内83会場で秋の座談会を開いた。正組合員や女性組合員、准組合員といった多くの組合員が出席した。座談会では2016年度上半期の活動報告やJ Aはだの自己改革などについて説明。組合員からはTACを増員し、営農指導体制にもっと力を入れてほしい、電器器購入への助成は良い制度、こうした取り組みをさらに進めてほしいなど多くの意見が上がった。J Aに寄せられた組合員の意見や要望は、担当部署や理事会で検討。12月7、8日の一日皆野金日配布する「座談会報告」で報告する。

支所運営委員会で活性化 特性生かしイベント

J Aはだのは今年度、地域に根差した協同組合として「支所運営委員会」を設置した。メンバーは各地区の理事や生産組合、女性部、青年部などから選出。各々が地区の特性を生かした活動内容を考案し、地域活性化に取り組んでいる。6日には、本町支所運営委員会が「来店感謝デー」を開いた。本町地区の草山花園のナテシノコ



来店者に感謝を込めてナテシノコを手渡した

花苗を来店者先着100人に配布「J Aはだの」のちらしも一緒に手渡し、地産地消を呼び掛けた。栗原幸一委員長は「まずは地域の人の絆をつくること。地産地消を勧めながら、地区の団結力を上げるためにさまざまな活動を提案していきたく」と話した。

文中の表彰などの人名紹介の際の敬称は省略させていただきます。



村人に落花生の脱粒作業を教える根岸会長

里山資源で活性化へ

農村「村人」募り魅力伝える

養毛地区の農家らで構成する「養毛地区里山資源活用会」は、里山資源を活用し「みのけ自然村」を開いている。県内外から募った「村人」に、米作りや川遊びなどを体験してもらおう。同地区の魅力を活かして、住民らと交流を深め、広く発信することにも、

農業に触れた感想を文集に
経営士会が発行



児童の思いをつづった文集を手にする和村会長

え、体験の様子もカラー写真で紹介した。文集は参加した児童の他、市内の全13小学校やJAはだの各支所、支店にも配布した。

東京の農業 体験農園視察
都市農地活用協

児童が精米作業 東小

東小の5年生ら94人は18日、同校と東市東地区社会福祉会が主催する「あすの里」で、自ら育てた米を東支所で精米。協議会が進める「あすの里」で、自ら育てた米を東支所で精米。協議会が進める「あすの里」で、自ら育てた米を東支所で精米。



精米機から出てきた白米に笑顔

児童らは地元農家にもみずりか、米は給食で味わう他、一人暮らしの高齢者への配食サービスに利用するなど、食農教育と地域福祉が一体となった取り組みになっている。



家族で楽しもうサツマイモ収穫

観光に掘り取り 大倉の

落花生、サツマイモの掘り取り合の畑に40組150人以上が来。今年度は畑山下、堀西、東を教わり、サツマイモの掘り取りを楽しんだ。

家族や子ども 体験イベントに喜びの声

秋が徐々に深まり、さまざまな農産物が収穫シーズンを迎えている。農家やはだの都市農業支援センターなどが農業体験イベントを開催。市内の小中学生が食農教育の一環で植え付けた米も収穫を迎え、各地から喜びの声が上がっている。

鎌使って稲刈り 鶴巻小



手際良く稲を刈り取る児童

鶴巻地区では9月26日、鶴巻小の児童らが協力し、管方の説明を受けると、班に分かれて稲刈りを体験。刈った稲はボランティアとして参加した保護者らに、わらで束ね乾燥させた。

はだの都市農業支援センターが「だつぎょう」作業を体験した。開く「農園オーナー制度」の各品その後、ゆでたエダマメを味。22日には、大木の畑で「津久井」を収穫し、小泉代表は「楽しく体験しても

エダマメを脱莢 大豆農園



エダマメの脱莢作業に励むオーナー家族

はだの都市農業支援センターが「だつぎょう」作業を体験した。開く「農園オーナー制度」の各品その後、ゆでたエダマメを味。22日には、大木の畑で「津久井」を収穫し、小泉代表は「楽しく体験しても

地産地消の大切さ知って 輸入農産物現況見学ツアー



奥村委員長から農産物の保管方法について説明を受ける参加者

じはさんすは13日、消の危険性などについて説明を受けた。輸入農産物の意識を高めてもらうこと、日本各地の特産加工品の原料に使われていること、温度管理が重要であること、湿度管理が重要であること、横濱港を訪れた。

参加者の一人は「食への意識が高まったし、多量物を保管している倉庫内の人には現状を知って見学した後、残留農薬を心配する」と話した。

家らと共に巡回。13、17、20の3日間は、市内7地区で開いた。同センター職員らは、おりに残された青果の足跡や通り道などを確認。その後、設置されている餌の種類やメンテナンス状況などを細かくチェックした。



捕獲おりの管理状況を確認する農家ら

捕獲おり巡回 検討会で適正管理促す

はだの都市農業支援センターは、毎年、春と秋の繁殖期に市内各所に設置した捕獲おりの管理状況を確認する巡回検討会を開催している。今年も9月27日、JAはだの管内各所で巡回検討会を開催した。

- ▽東地区 矢野チエ子 (落合 古吉君 (東田 原)
- ▽南地区 荒井初江 (平沢)
- ▽西地区 北村喜久枝 (堀山 岩田清子 (堀西 岡部タカ子 (千村)

77歳(喜寿)

- ▽大根地区 木村武敏 (北矢名 園蔵正一 (北矢名 野口江子 (下大根 田中ふじ江 (大根 又本町地区 石田正平 (寿町)
- ▽東地区 小清水ヨシ (東田原)
- ▽南地区 石井孝治 (清水町 酒井健二 (新町)

動物と触れ合う まつりで畜産理解促進



羊と触れ合う子どもたち

畜産市畜産会は27日、市民に畜産への理解を深めてもらうため、東田原の田原ふるさと公園で「畜産市畜産まつり」を開催した。

会場では、畜産物の豚が丹精して育てた乳牛の肉を使った料理販売し、頭を審査、互いの飼養技術や牛の育成状況を競い

- ▽西地区 北村滋子 (堀山 横溝清造 (堀山)
- ▽上地区 牧石貞夫 (八沢)
- ▽自己申告ですので、該当の方は各支所、支店までご連絡ください。

発見 頑張り屋

地域の耐震専門家



東田原で総合建設会社「南マルカメ」を営む相原広幸さん。高校卒業後の10年間、サラリーマン生活を送った。その後、友人の建築会社で2年間働き、父の体調不良をきっかけに、1996年に経営を引き継いだ。2001年に二級建築士の資格を取得し以降は、地域住民に耐震化の重要性を伝え、地域に根差した耐震診断・改修の専門家として

日々活動している。仕事の内容は？ 耐震診断や改修を専門に行っています。相談依頼時に無料の耐震診断をお勧めし、その家に合った補強提案をしています。

仕事以外には？ 休日は、ボイスカウトで活動しています。子どもたちから入団して、現在、ボイスアウト楽野第一団の副団長を務めています。月3回くらい子どもたちと楽しく野外活動しながら訓練もしています。



長寿者に記念品贈呈
いきいきライフ支援事業
おめでとうございませす。末永くお元気で過ごしてください。

告知板

11月の年金相談会
年金の受給に関する無料の相談会を開きます。個別にご相談をお受けします。お気軽にご来所ください。
◎11月7日(月) 西支所
◎11月9日(水) 本町支所
時間は午前9時から午後4時。相談を希望される方は、支所または信用課まで事前予約をお勧めします。
お問い合わせは信用課まで。☎81-7716

別金利を設定します。
「ちょりスグッ」などのプレゼントも行う予定です。
お問い合わせは各支所・支店または信用課まで。☎81-7716

第52回秦野市農産物品評会
農産物の栽培技術の向上と優良品種の普及および消費拡大を目指し、秦野市農産物品評会を開催します。
◎会期 11月18日(金)～20日(日)
◎会場 本所農業団地センター
◎日程
▽搬入 11月18日(金) 午前8時～同10時30分
▽審査 11月18日(金) 午後1時から
▽一般公開 11月19日(土)～20日(日)
▽表彰式 11月20日(日) 午前1時30分から
期間限定の定期貯金特本所3階虹の間

年末特別貯蓄運動を展開
組合員や地域住民のニーズに応えるため、年末貯蓄運動を展開します。
◎運動期間 11月1日(火)～12月30日(金)
◎一日貯蓄日 12月7日(水)、8日(木)
期間限定の定期貯金特本所3階虹の間

「十三夜」のお月見飾り
三廻部の前場芳雄さんを招き、「十三夜」のお月見飾りを展示した。ススキやキキョウなどの秋の七草の他、前場さん家族が手作りの団子や秋に収穫した栗などを設置した。11日には、市立上幼稚園の園児9人を招き、「十三夜」について説明した。
前場さんは「昔からある年中行事をこれからも大切にしていきたい」と話した。

農作業安全標語の入選作品を決定
作品は来年のカレンダーに掲載
7、8月にJA機関紙で募集した農作業安全標語の入選作品が決まった。同運動の環境で、農作業の安全対策意識の高揚と農業防災保険加入を促進することを目的に募集。今年度は30人から222点の応募があった。入選した作品は、来年度のJAはだのオリジナルカレンダーに掲載する予定。今年の特選標語は次の3点。
慣れと過信に潜む事故 気を引き締めて安全操作
小室 幸雄(春日町)
労災は 入って安心 心のゆとり
小室 照子(淡沢)
農業は 正しい管理と 正しい使用
高木 嘉美(堀川)

11月の女性部行事予定

1日(火)	上支所「お茶飲み交流会」
8日(火)	女性部本部役員会
10日(木)	ふるさと料理教室(みどりこども園)
14日(月)	女性部支部役員会(東)
15日(火)	女性部支部役員会(大根)
16日(水)	ふるさと料理教室(北幼稚園)
18日(金)	第69回神奈川農協大会
24日(木)	ふるさと料理教室(つるまきこども園)
25日(金)	ふるさと料理教室(東幼稚園)
29日(火)	ふるさと料理教室(大根幼稚園)
30日(水)	ふるさと料理教室(淡沢こども園)

「菊展」1日(火)～7日(月)
店外のテントで菊花会が菊花展を開きます。
☆「ユースマルシェ」5日(土) 青年部員がサトイモ、カブ、ネギ、サツマイモ、茶などを対面販売します。
☆「お楽しみ詰め放題」5日(土)、6日(日) みんな大好き詰め放題です。お楽しみに!
☆「国産加工豚の日」5日、26日(土) 肉フリーデンが国産豚を使用した加工品を試食販売します。
☆「農村レストラン弁当」8日(火)、22日(火) 農家のお母さんの手作り弁当です。秦野産野菜がたくさん入っておいしいですよ。
☆「漬物フェア」10日(木) おすすめの漬物を試食販売します。
☆「周年祭」12日(土)、13日(日) 生産者の手作り品などの他、産地間提携先のJAの模擬店が並びます。人気のじゃこも販売します。お買い上げ200円ごとにお楽しみ抽選もあります。
☆「農業まつり」19日(土)、20日(日) タマネギやジャガイモ、ゴボ

今月の生産者

すとう ようこ さん
キウイフルーツ、柿などの果物
夫「忠三」の名前で出荷しています。農業はできるだけ少なくして、安全・安心なものを提供できるようにこだわっています。キウイフルーツはそろそろ出荷が終わるので、10月末からは柿を出荷します。甘くておいしいのでぜひお試しください。

食を通じて文化交流



趙氏の指導を受けながら「テンジャンみそ」作り

「アジアとの共生」実践
女性部は20日、韓国の料理研究院長・趙善玉(チョ・ソンオク)氏を招き、本所で料理実習「JAはだの家の光クッキングフェスタ」を開いた。JA運営の基理念に掲げる3つの共生運動の一つ「アジアとの共生」を実践し、食を通じて文化交流を図るのが狙い。部員をはじめ地域住民ら約120人が、本格的な韓国料理を学んだ。
趙氏は韓国料理「ソル」を進めた。実習後は、昼食に地場産農産物を使った韓国料理と「家の光」掲載の料理を味わった。趙氏による講演と宮永均専務と韓国のトクシヨに耳を傾けた。

たばこ祭でパレード
女性部は9月25日、秦など総勢1000人以上の法被を着用、「JAはだの女性部」と書かれたフラカートを掲げた小泉裕子部長を先頭に、本町小学校を出発し、市内の幼稚園や団体を巡り、パレードに参加した。

「北開会」による舞踊披露の際には、「炭坑節」などを一緒に踊り、楽しいひとときを過ごした。
西支所は14日、本所で料理講習会を開いた。22人が参加し、豆腐作りをした。部員はレシピを確認しながら、煮た大豆を木綿袋で絞り、豆乳とおからに分離。豆乳に二ガリを加えて型に流し込んで固めた。豆腐は冷やっことで、おからはサラダに味付した。その他にも、地場産野菜を使った炊き込みご飯やみそ汁を作り、各自が持参した漬物なども用意して、参加者全員で昼食会を開いた。



女性理事と女性部が力を合わせてかかし作り

女性の力を結集 理事とかかし作り
JAはだの女性理事と女性部は、定期的な意見交換会を開き、互いの意思統一と団結力を高める活動を考案している。今年2月には、じばさん前で炊き出し訓練を初めて実施するなど、交流を深めてきた。
17日には、本所選果場前でおかし作り。理事や本部役員ら17人が共同作業で作業した。かかしはJAはだのオリジナルキャラクターPRする予定だ。

女性部活動
私たちが作った漬物や茶菓子などを持参して、食事は自分の好きなものを頼み、和気あいあいと過ごします。料理の作り方を教え合い、いろいろな話で盛り上がり、楽しいひとときを過ごしています。
人数の少ない中で、部員の皆さんに協力していただき感謝しています。本当にありがとうございます。

支部だより
お茶飲み交流会
本町支所は9月29日、JAはだのさわやか館で高齢者の生きがいと仲間づくりを目的に「お茶飲み交流会」を開いた。17人が参加した。
本町支所のメンバー8人が協力し、細長い風船を使って犬のバルーンアートに挑戦。昼食には、地場産農産物を使った手作りの弁当を味わった。

南支所
かちんご作り
南支所は12日、本所で料理講習会を開いた。10人が、かちんごを作った。かちんごは、小麦粉に砂糖を加えた甘味のあんをのせて作る。参加者は生地を切り分け形を整え、もたを作った。物によっていろいろな味が楽しめる。簡単な家で子どもが持参した漬物なども用意して、参加者全員で昼食会を開いた。

